

平成29年度事務事業進行管理表(自治振興センター用)  
(環境ISO管理)

事務事業名	一般事務及び施設管理業務
センター名	南信濃自治振興センター

1 環境側面及びそれに伴う環境影響

通常時	非通常時	緊急事態	環境側面	影響評価						著しい環境側面
				1	2	3	4	5	6	
○			紙の消費	×	×	×	×	×	—	
○			電気・LPガスの消費	×	—	×	—	×	—	
○			水の消費	×	—	—	—	×	—	
○			施設の緑化	—	—	○	○	—	○	
○			フロン漏れ	×	—	×	×	—	×	
○			雨水利用による節水、緑化	×	—	—	×	—	×	
		○	LPガス漏れ	×	—	—	—	—	—	
	○		公用車の廃棄	×	×	—	—	×	×	

【作成上の注意】

- 「通常時」は通常の業務・作業の条件下で発生する可能性が大きい場合、「非通常時」は業務・作業の開始・終了時、停止時、故障時などの条件下で発生する可能性が大きい場合をいいます。
- 「環境側面」は、環境と相互に作用する、又は相互に作用する可能性のある組織の活動又は製品又はサービスの要素です。
- 影響評価は、1：典型7公害(大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)、2：廃棄物発生/抑制、3：地球温暖化の進行/抑制、4：自然の破壊/保全(緑地、生物多様性、水辺)、5：資源の枯渇/保全、6：その他(有害物質、景観)の分類ごとに実施します。
- 評価基準は、分類ごとに、環境側面が与える環境影響について、影響範囲、発生頻度、影響の重大性(最悪を想定)を考慮して判断します。
- 影響評価の結果の表示は、良い影響大：○○、良い影響小：○、影響なし：—、悪い影響小：×、悪い影響大：××と表記します。
- 影響評価の内容により、課長が著しい環境影響があると判断した場合は、「著しい環境側面」とし、○を入力します。

2 環境側面に伴う順守義務

法令、例規、利害関係者のニーズと期待のうち順守すると決定したもの	要求事項	順守評価	
		中間	年間
廃棄物の保管	廃棄物保管の表示、分別の徹底、飛散・流出・浸透・悪臭防止の措置	○	○
消防法に関する施設管理	防火管理者の選任	○	○
消防法に関する施設管理	消防用設備の点検(1回/年)及び結果報告	○	○
消防法に関する施設管理	避難訓練計画の届出及び訓練の実施(1回/年)	○	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化	第一種特定製品の適正管理と点検等の実施	○	×
使用済み自動車の再資源化	リサイクル券の適正な保管及び廃棄時の適正な処理の実施	—	—
家電類の廃棄	家電リサイクル法に応じた廃棄時の適正な処置の実施	—	—

- 順守評価が必要なものについて記載します。
- 組織の状況等の検討表の「2 利害関係者のニーズと期待」において「うち、順守義務とするもの」と決定したものを転記します。
- 順守評価結果は、良：○、否：×、期間中に要求事項に該当する内容なし：—で表示します。

3 リスクと機会(上記1及び2に関係するもの)

リスク (マイナス要素)	紙・電気等の消費、産業廃棄物の排出、汚水の流出、火災の発生、フロン類の漏出
機会 (プラス要素)	グリーン商品の購入、施設の緑化

4 環境目標

番号	区分	環境目標 ①実施事項(何を) ②達成期限(いつまでに) ③結果の評価方法(どのような水準に)	年間スケジュール 環境目標達成のための 手段・方法・手順	中間評価		年間評価	
				進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況	進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況
1	①	紙の消費量の抑制	両面印刷、裏紙利用の推進と会議資料の簡略化による紙の削減に努める。 半期ごとに検証する。	まちづくり委員会総会資料等の簡略化を実施し、紙消費量の抑制に努めた。	○	前年度コピー枚数88,416枚に対して29年度2月末は84,670枚であり、3月使用を見込んで目標は達成した。	○
	②	年間を通じて					
	③	対前年比3%減を目指す					
2	①	施設の緑化	庁舎周辺花壇及び駐車場の一部を芝生とした緑化に努める。	庁舎周辺花壇及び駐車場の一部を芝生とした緑化に努め、施設内においては植物を配して明るい環境づくりを実施した。	○	遠山中学校生徒会及び地域住民により、自治振興センター内、玄関前に鉢植えの花等も置かれ、さらに施設緑化が進んだ。	○
	②	年間を通じて					
	③	明るい環境づくりを目指す					
3	①						
	②						
	③						

平成29年度事務事業進行管理表(自治振興センター用)  
 (環境ISO管理)

事務事業名	団体活動支援事業
センター名	南信濃自治振興センター

1 環境側面及びそれに伴う環境影響

通常時	非常時	緊急事態	環境側面	影響評価						著しい環境側面
				1	2	3	4	5	6	
○			遠山郷いい川づくり推進会議河川愛護活動	—	×	×	○	○	○	
○			水辺等美化運動	—	×	×	○	○	○	
○			ごみゼロ運動の取組	×	—	—	○	—	○	
○			観音霊水を愛する会 水質保全活動	—	—	○	○	○	○	

【作成上の注意】

- 「通常時」は通常の業務・作業の条件下で発生する可能性が大きい場合、「非常時」は業務・作業の開始・終了時、停止時、故障時などの条件下で発生する可能性が大きい場合をいいます。
- 「環境側面」は、環境と相互に作用する、又は相互に作用する可能性のある組織の活動又は製品又はサービスの要素です。
- 影響評価は、1：典型7公害(大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)、2：廃棄物発生/抑制、3：地球温暖化の進行/抑制、4：自然の破壊/保全(緑地、生物多様性、水辺)、5：資源の枯渇/保全、6：その他(有害物質、景観)の分類ごとに実施します。
- 評価基準は、分類ごとに、環境側面が与える環境影響について、影響範囲、発生頻度、影響の重大性(最悪を想定)を考慮して判断します。
- 影響評価の結果の表示は、良い影響大：○○、良い影響小：○、影響なし：—、悪い影響小：×、悪い影響大：××と表記します。
- 影響評価の内容により、課長が著しい環境影響があると判断した場合は、「著しい環境側面」とし、○を入力します。

2 環境側面に伴う順守義務

法令、例規、利害関係者のニーズと期待のうち順守すると決定したもの	要求事項	順守評価	
		中間	年間

- 順守評価が必要なものについて記載します。
- 組織の状況等の検討表の「2 利害関係者のニーズと期待」において「うち、順守義務とするもの」と決定したものを転記します。
- 順守評価結果は、良：○、否：×、期間中に要求事項に該当する内容なし：—で表示します。

3 リスクと機会(上記1及び2に関係するもの)

リスク (マイナス要素)	
機会 (プラス要素)	河川環境保全、在来種(植物)の保護、水源地の確保、環境意識の向上

4 環境目標

番号	区分	環境目標 ①実施事項(何を) ②達成期限(いつまでに) ③結果の評価方法(どのような水準に)	年間スケジュール 環境目標達成のための 手段・方法・手順	中間評価		年間評価	
				進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況	進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況
1	①	遠山川兩岸の草刈	下伊那南部建設事務所と河川改修箇所周辺の地域住民が協力して「かぐら大橋」上流兩岸の環境美化活動を実施する。	7月9日(日)に下伊那南部建設事務所と河川改修箇所周辺の地域住民が協力して「かぐら大橋」上流兩岸の環境美化活動を実施した。	○	「遠山郷いい川づくり」推進会議を開催、次年度の環境美化活動の計画について協議した。	○
	②	7月末					
	③	1回以上実施					
2	①	遠山川兩岸の草刈、美化活動	遠山川の美化活動、外来植物の駆除についての知識を学び計画的に実施する。	遠山川周辺に定着している、外来植物の駆除についての知識を学び、地区及び高齢者クラブにより環境美化活動を実施した。	○	「遠山郷いい川づくり」推進会議と、自治会、公民館などが連携して環境美化活動を実施した。	○
	②	8月末					
	③	1回以上実施					
3	①	ごみゼロ運動の参加者数	市民協働によるごみゼロ運動として、春秋の2回環境美化活動を行い、その実績をカウントする。	春ごみゼロ運動 398人	○	秋ごみゼロ運動 374人 年間計 772人	×
	②	年間を通じて					
	③	H27年度実績数(781人)以上を確保					
4	①	水質保全活動	「観音霊水を愛する会」が毎日給水場を清掃し、月1回水源地周辺の清掃と点検を実施する。	観音霊水の水源地の清掃、点検を3回以上実施した。	○	観音霊水の水源地の清掃は毎日、点検を年間5回実施した。	×
	②	年間を通じて					
	③	水源地の清掃12回以上実施					